

第 46 回 2018 年 9 月 26 日 (水)

ゲスト 高木伸也 朝日放送テレビ 制作局制作部プロデューサー

テーマ 「深夜番組とインターネット

～バラエティー番組「相席食堂」の動画配信・SNS 活用～」

主な内容

- ◎お笑いコンビ「千鳥」が主役のバラエティー番組「相席食堂」
- ◎ツッコミたくなれば 大きなボタンを押して VTR ストップ
- ◎特番「千鳥の故郷が丸裸」 西川きよしと DJKOO が“相席”の旅
- ◎壮大な千鳥の漫才 志村けん一座の大衆演劇がヒント
- ◎今の若者は地上波テレビを見ていない
- ◎予定調和がない 一次情報にこだわる ～若者にウケる番組とは～
- ◎番組のネライ 粗いセットに粗いオープニング あえてダサく
- ◎「Tver」などネット視聴にも照準 東京などへ視聴エリア広がる
- ◎公式ツイッター7月に開設 ネット上にも“相席”ファン増える
- ◎地上波テレビとインターネット放送の違い
- ◎番組のコンセプト “田舎・人との出会い” から千鳥のキャラクターを全面的に

司会 「メディアウォッチング」例会は6月以来であります。前回は台風の被害の話が出ましたが、9月に入ってから台風が二つまいりまして、我が家は棟の板金が飛ばされ、未だに屋根の修理が来ないという状況です。皆さまのお宅ではいかがでしたか。

昨年から、現役の放送人を講師にお招きし、番組作りの最前線について実際に番組を見ながらお話を伺っておりますが、今日は朝日放送テレビから制作局制作部のプロデューサー高木伸也さんにお越しいただきました。大変お忙しい中時間を割いていただきありがとうございます。

まずは高木伸也さんをご紹介します。(拍手)

東京生まれの大阪育ちということで、東京の方がなんでこんなベタな番組をお作りになるのかなと、先入観をもって打ち合わせをしたんですが、高木さんは完璧な関西弁でありまして、というのも7歳で関西にいらしたということで納得しました。

現在放送中の番組(バラエティー)「相席食堂」(日曜日 23:10-23:35)についてお話を伺います。この番組は関西エリアで放送しているほか、テレビ朝日の系列数局では、従来通り、テープ(VTR) ネットで別の日に放送しております。さらに「Tver」(ティーバー、民放テレビ局が共同で立ち上げた“見逃し配信”)などネットの無料配信サービスでも視聴する方法があります。私も不勉強ながらこのような再放送の仕組みがあるとは知りませんでした。それでは、高木さんのお話の後、番組を見せていただきます。

高木 P 高木と申します。こういう機会をいただきまして、自分の番組を整理する時間になり本当にありがたいなと思っております。めちゃくちゃ緊張していたんですが今朝からちょっと家庭のことで一方的に50件くらいLINEが来ていて、そっちの対処で緊張がほぐれて、いいぐらいになったかなと思います。

僕自身は2007年に入社(高木さん配布の資料によると「大阪大学大学院卒化学系専攻、研究者人生にワクワクしなかったのでテレビ業界へ」とある)。もともと営業出身の人間です(ラジオ営業2年半、その後東京に行ってテレビ営業4年)。それまでは編集ってどうやってするのか、何も知らない状態で、いきなり制作局の制作部に配属されました。制作セクションに、行きたい行きたいと言っていたんですが、32歳で何も知らないで制作現場、しかも報道やスポーツとかといった現場ではなく、なにかゼロから生み出せというテレビの制作部に配属(制作セクションにきて5年)。最初の3年は本当に何をしたらいいのか分からない状態でしたが、ようやく自分でこんなことがしたいなということが見えてきました。でも、新しい番組というのは運がないとできるもんじゃないと思っていた矢先、そのタイミングが偶然やってきたということもあって、それなら、自分のやりたいことをここに

凝縮しようと思って作った番組がバラエティー「相席食堂」ということになります。日曜日の 23 時台に放送しているんですが、ABC テレビでいうと「ナイト in ナイト」月曜日の「なるみ・岡村の過ぎる TV」から金曜日の「探偵！ナイトスクープ」枠の次のコンテンツを試していこうという大義名分のもと作られている枠です。そこを目指していかなければならないのに、実際は結構、真逆のことをやっています。ネライに行くには今のご時世、情報が入っている番組が多いんですが、この番組には全く情報がない。中身 25 分の中に腹をかかえて笑う瞬間が二度起きればよいという考え方で作っている番組になります。

<お笑いコンビ「千鳥」が主役のバラエティー番組「相席食堂」>

それです番組を見ていただく前にお渡しした資料(6 枚)で若干説明させていただきます。といいますのは、番組はわざと雑に作っていて「付いて来る人は付いて来い」というスタンスで作っているんです。そういう作り方にも理由があって、これはいきなり見ても分からないと思いますので。

スタジオに千鳥(大悟・ノブ)という二人の芸人をおいています。ほかの出演者は排除しています。この「芸人の面白さを前面に出すためにスタジオにいるのは千鳥だけ」というのが一つ目のポイント。あとはタレント(有名芸能人)に全国へロケに行ってもらいます。一日でロケをしてもらって、訪ねた地元の食堂に出向きいきなり“相席しましょう”とお願いする。最近、相席するのが世の中で流行っていたりするんですが、相席の魅力って何かなと思って、自分でも何回か相席してみたんですが、本当に突然会うことで一次情報が得られていくなと思いました。事前にこちらで調べたものを撮りに行くのではなく、芸人が全国の食堂に出向き、行き当たりばったりの旅から地元の人との交流を深めていく。逆に突然の訪問が全く無視されることもある、しかし(この番組では)そこもありのまま放送に使っていくというのが、もう一つのコンセプトとしてあります。

このロケして収録してきたビデオテープ(VTR)を千鳥の二人がスタジオで見る。千鳥が VTR を見ている、ちょっとツッコミたくなったら“ちょっと待てい”のボタンを押して VTR の映像を止める。資料には次のキャッチコピーがある。

誰もがテレビに向かって言いたかった

共感やクレームを千鳥が代弁してくれる番組

<ツッコミたくなれば 大きなボタン押して VTR ストップ>

“ちょっと待てい”のボタンの仕掛けは、以前 ABC テレビで放送されていた「東西芸人いきなり！2人旅」という番組がありまして、東の芸人と西の芸人が出会って一緒に旅するという内容で、スタジオで同じようにボタンを押すシステムがあ

るんですが、そこを利用しながら、最大限、千鳥を活かせる方法がこれだったのでこの仕掛けを採用しました。

千鳥がツッコミたくなったら、目の前にあるボタンを押して VTR を止め、そしてツッコムという本当にシンプルな番組になります。

千鳥というタレントは何に長けているか、これはやってみてより感じるようになったんですが、千鳥のツッコミって、視聴者にメチャクチャ近いんです。メチャクチャ近いから、共感が生まれるんですね。なかなかこういう芸人さんって、ほかにいない存在だと思っていて、それが徐々に世間でウケ始めているのかなという部分があります。

多分ツイッターとかは、テレビを見ながら、思わずここで（千鳥がちょっと待てのボタンを押したところで）不特定多数の人に自分の意見を発信するんですね。その場面を見て、自分はこう思ったとか、あるいは自分の思っていたことと同じだったとか、違っていたとかをツイッター上でやってくれているところがあります。

つまり、ネットと重なり合っている、そういう番組なんですけど、まずは番組を見ていただいて、その後ご質問にお答えしていきたいと思います。

「ユーチューブ」（動画配信）には
こんな文字がスーパーされている

ある日突然

有名人が田舎の食堂に現れ

地元の人にいきなり相席を

お願いしたら、どんなドラマが

生まれるのか！

そんな行き当たりばったりの旅を

“田舎出身&ロケマスター芸人”の

千鳥がツッコミながら見守る

“芸人と地元民のガチ交流バラエティー”

<特番「千鳥の故郷が丸裸」 西川きよしと DJKOO が “相席” の旅>

VTR ▼番組のオープニングには「相席食堂」の暖簾が登場

「相席食堂」1時間スペシャル 開店」（のアナウンス）

シンプルなスタジオで千鳥が

いらっしやいませ ようこそ「相席食堂」へ

（といつも通りに呼びかける）

可哀そうになと、早速、ツッコミが入って(笑い)

「いきましょう さあ今回は1時間スペシャル」
“いつもより倍ぐらい長い、しんどいの”と
千鳥がつぶやく。

▼ビデオテープの冒頭ナレーションで旅人の行き先が告げられる。

「相席するために向かったのは、岡山県井原市芳井町 - - -」芳井町(千鳥・ノブの故郷)の町名が読み上げられた直後に、早速ツッコミが入る。「ちょっと待て、ちょっと待てよ。何もないって、日本で一番何もないって、俺こけた」とスタジオは大騒ぎとなる。

▼会場で試写されたのは2018年7月1日(日)放送の「相席食堂」の特別番組「千鳥の故郷が丸裸」(60分)。千鳥の大悟とノブの二人の生まれ故郷をルポする旅である。

旅人は西川きよしと DJKOO (ミュージシャン)。
二人は別行動である。

西川きよしとノブの実家のある岡山県井原市芳井町へ。

DJKOO は大悟の生まれ故郷岡山県笠岡市北木島を訪ねる。

いつもの通り大悟とノブには二人の旅人がどこへ行くかは何も知らされていない。このルールが大原則で番組が始まる。

大悟とノブの二人は、それぞれの両親との相席で語られる“秘密”の話に何度も“ちょっと待ていボタン”を押し VTR を止めツッコミを入れる。

慌てふためくスタジオの千鳥の様子をカメラがクローズアップしていく。

▼旅人である西川きよしと DJKOO のロケでは、

さらにこの後、千鳥の兄弟や小学校の同窓生、初恋の相手まで探し出す。

高木 P (VTR の映像を受け) 大事にしていることは現場に起きたことを、段取りじゃなくて、そのまま見せていく。実際、(千鳥の)初恋の人を訪ねるシーンも想定外だったんですが、まさか本人が自宅にいるとは思わなかった。現場で起きたことを全部見せていく、この原則を大事にしています。

実は千鳥には、(事前の打ち合わせで) 今日ここに行きましたとしか言ってなくて、何が起きているか全く言っていないんです (千鳥の故郷を訪ねる特番のケースは、当然行き先については伝えていません)。

千鳥の信頼できるどころというのは、あれだけのテンポで、編集はしていますが、ほぼ同じスピードでツッコミをやっていること。あれだけのことをすぐに VTR を見て判断してやってくれるところが長けていると思います。

< 壮大な千鳥の漫才 志村けん一座の大衆演劇がヒント >

僕がなぜこんなに千鳥にこだわっているかという、今でこそ東京のテレビでも千鳥ブームになっていますが、この番組のスタート前はまだそこまで来てなくて、彼らをもっと活かした番組があったほうがいいんじゃないかと個人的には思っていたからです。これが、この番組の誕生のきっかけです。

僕らの世代は、「天才・ビートたけしの元気が出るテレビ」(日本テレビ、1985年～1996年)であったり、ダウンタウンの「ごっつええ感じ!!」(フジテレビ、1991年～1999年)だったりとかで、やっぱりたけしさんが見たい、ダウンタウンが見たいというので育ってきました。

今の番組は、MC(司会・番組の進行役)は立てても、みんなの回しをするだけで、その人自身を生かした番組ではない。もちろん MC の特徴をつかんだ番組なんですけど、どちらかという、中身の情報で楽しむバラエティーになっていて、ちょっと寂しく思いました。

千鳥という芸人をゲットしたいなと昨年 10 月、千鳥の単独ライブ(年 1 回)に出かけました。漫才を何本もやる中で一本余興みたいなことをやったりするんですが、彼らはここで新しいことにチャレンジしようとしていました。

実は大悟は志村けんに入られていて、志村さん主催の大衆演劇「志村魂」(志村けん一座)に似せたことをやりたいと言って、舞台上で大悟という人物が大衆演劇をやったんです。それだけでも面白かったんですが、ここで一つ仕掛けがあって、後ろに大きなモニターがあり、観客席側に座った相方のノブが、常にツッコミを続けている。これを見てぴんときて、番組にしたら面白いなというところで、この番組が生まれたのです。

早速今年 2018 年 1 月 4 日にトライアル番組を作ったところ、数字（視聴率）もそれなりの結果が残せたので、おかげさまでラッキーなことに 4 月からレギュラー番組としてつながっていったんです。

今のご時世、こういう“情報ゼロ”の番組でレギュラーとして放送されるのは、ほぼないと思います。本来なら、VTR をいっぱい見たいという感情が生まれてくると思うのですが、実は、これは全編を通じて千鳥の壮大な漫才というのを裏のテーマとして掲げているんです。だから千鳥を見せる番組なんですね。ただそうならないように、VTR 自体が面白くなるようにというコンセプトで番組を作っているのですが、ここまでが、僕が作っている番組の説明です。

次に、若者にうける番組って一体何なんだろうかというのをこの番組（「相席食堂」）を作るにあたってすごく考えてきました。

<今の若者は地上波テレビを見ていない>

いわゆる、M1 層（20 歳～34 歳男性）、F1 層（20 歳～34 歳女性）、特に M1 層は本当にほぼ（地上波）テレビは見ていません。〈若者のテレビ離れは〉僕も会社に入ってから言われ続けてきたことなんですけど、とくにここ 2～3 年それがすごい速度で進んでいるなと思います。グラフを見ても、人気番組を見ても、M1 層の数字が低く、実際にテレビを見ていないんだということを再認識しました。

しかし、彼らはユーチューブ（ネットの動画配信）とかでテレビ番組を見ているんですよ。放送局からすれば、うれしくないことなんですけど、番組がそのままユーチューブで流していたりします。また「Tver」（民放テレビ局が提供する配信サービス）というのが民放公式サイトであって、ドラマ番組など見逃した番組をネット上、無料で見ることができます。ただし 1 週間とか 2 週間の期間限定での配信です。データなどからこのサイトには、若者もアクセスしているということが分かってきています。そもそもネットで見てもらわないと、テレビを見ないよねというスタンスで、番組作りをしないと、つまり、もう一度原点に戻って、そんなことを考えながら番組を作っています。

<予定調和がない 一次情報にこだわる ～若者にウケる番組とは～>

そこで今、若者にうける番組とは何だろうかと考えたときに、まず予定調和がないことが大事だなと思っています。それがつまらないということをネット上で言う人が多いんですが、ネット上は匿名なのでみんなが評論家で、みんな議論したがるんです。物事が予定調和で進んでいるとつまらないので、先が読めない展開にしないとイケないよねということになる。

次に一次情報にこだわることですね。今の若者はテレビを見て情報をしっかり知りたいのではなく、自分でスマホを見て、検索し自分なりの答えを出していくので、

バラエティーにおいては、(情報は) さわりだけで、あとは楽しんでもらえる、あえて雑な作り方をするほうが若い人は見てくれるんじゃないかなと思います。もちろんしっかり深い情報を伝えていく番組があってもいいんですが。

もう一つ、「相席食堂」のスタジオセットはダサイんですが、わざとそうしているんです。(先ほどビデオでもご覧になっていただきましたが) 後ろのセットは、別番組の「朝だ！生です旅サラダ」(土)のものなんです。この「旅サラダ」の中に簡易のセットを作っているんです。結構、ひんぱんにいじって手直ししていますが、テレビの裏側とかそういうところを、あえてこういう粗い感じで見せていくことにしています。

僕はユーチューブが基本的には好きじゃなくて、面白くないと思っています。

ただ、普通の部屋をスタジオ代わりにして番組を収録するとか、手作り感といったところは、意外に大事なのかなと思っています。きれいに見せることばかり考えていたんですが、今は、そうじゃないところがウケてブームになっているんでしょうね。

若者の間では、テレビは茶の間で見るものではなくて、スマホ視聴が主流になりつつあります。スマホ視聴が前提になれば、今日見ていただいた1時間のスペシャル番組ではちょっと長過ぎる。レギュラーの「相席食堂」は25分番組で、その時間内でちゃんと完結することが意外に大事かなと思っています。今まで番組が長ければ、視聴率が稼げるし、1時間ツウコンセプト、スリーコンセプトあってという番組作りが結構あったんですが、実は30分位(の番組)だったら、電車の中で見ることができる。人がスマホを持ちながら見る丁度いい時間じゃないかな。(電車の中では)1時間だとしんどいですね。

スマホ視聴が前提なら、やはり25分ワンコンセプトがのぞましいのでしょうか。特番のときは、街の魅力とか、一次情報にこだわるといっても一般の方とのトークで生まれるものには限りがある、そこでこちらで(事前に)調べて、そこに行けるように、もちろん段取りというのは組んでいました。

ただ天候不良で大幅にスケジュールが変わったことがありました。旅人が千原せいじさんと長崎県五島列島へロケに行ったときです。ロケ当日、飛行機が飛ばなくなって長崎で足止めになりました。飛行機も飛ばない。船も海が荒れていて欠航。どうするかということになった。結局、島についたのが夜になったんです。夜到着なので、スケジュール的には次の日の朝までしかロケする時間がない。ロケのスタッフは限られた時間内に(混乱の状況も入れて)ドキュメントとしてまとめ放送したんですが、そっちのほうが結果的にはよかったことになりました。そういう経験もあって、(ロケハンより)そのときの現場のロケの流れを最優先していこうということになりました。これからもいろんな経験を活かして、こだわりをもった番組作りをしていきたいと思っています。

<番組のネライ 粗いセットに粗いオープニング あえてダサく>

この番組の特徴は、粗いセット、それにオープニングもあえてダサく。

“いらっしゃいませ ようこそ 「相席食堂」へ”というのは無理やりやらせていて、(初めに) ノブがやって、大悟がそれに対してひと言。実は大喜利なんです、同じことを大喜利で繰り返す。実際は(二人に) 任せているんですが、ここではこう言う、ダメ出しを食らったり、すると、次の回はこうする。つまり、ちゃんと番組のコンセプトを言ったりするオープニングではなくて、もうすでに漫才が始まっていて、先週見た人が今週も見たくなるようなそんな細かい工夫をこらしています。

先ほど、ツッコミを入れた際、ボタンを押して VTR を止めた二人がいろいろコメントを言っていました、その時画面に表示されるテロップの文字をすごく大きくしているのにお気づきかと思います。強いコメントを出した時に、今テレビを見ている人(特に若者)は大きな文字がスーパーされた画面をケータイでカシャッと写真に撮りこみ、ツイッターにあげる、それが何かしら一気にバズるといふか、ネット上で話題になる。そういう風に(「相席食堂」のテレビ画面を)パッと撮った時にシンプルで見やすく、そして文字が大きく分かりやすくなるよう、制作スタッフはネットを意識して、テロップの作り方、入れ方を工夫しています。

もうこれはスマホ視聴、ネット視聴に合わせた作り方をやっていると言ってもいいでしょう。

<「Tver」などネット視聴にも照準 東京などへ視聴エリア広がる>

今、話題になっている「Tver」とか「GYAO」というのはいずれもインターネットを利用した映像の配信サービス、例えば「Tver」の場合、地上波テレビで放送した番組(民間放送)で“見逃した番組”を1週間だけ無料で見られるサービスを行っている。

実を言うと、(テレビ番組を作っている)制作の人間からすると、すごくいやなこと、ネットで1週間、視聴できるのであれば、リアルタイム(地上波テレビ)で見なくていいよねという気持ちになる。僕自身もその気持ちが強く、もう敵だと思っているくらいでした。

ネット配信になると、音(音楽の著作権など)が使えなくなるとか、また提供してもらった画像が使えないとか、実は新たに編集費がかかったりして、いいことないんじゃないかなと思ったりもしていたんですが。それでも「Tver」や「GYAO」を見てもらわないと、若い人たちをひきつけられないよねという前提に戻ったら、ちゃんとネット視聴をやるならやるで、ここを目指した作り方を考えないといけない(と思うようになっている)。

地上波テレビでは、リアルタイム視聴と、ハードディスクなどで見る録画視聴がある。視聴率 6%の番組の場合、録画視聴は 0.1~0.2%ぐらいの上積みなんです。一方、「Tver」や「GYAO」などで見ている人は何万人もいるということを考えると、あまり録画視聴のことなど意識しすぎては、元も子もないので、まずやることはやりましょうということで僕らは意図的に「Tver」や「GYAO」に力を入れているのです。

「Tver」などでネットにあげると逆にメリットもあって、「相席食堂」は関西ローカルの番組なのに全国で見てもらえる。話題にする人は結構東京の人が多く、そこは逆にチャンスだなと思っています。

実際、今 9 万件ぐらい（番組を）再生してもらっています。これは比較的多い数字で、データでみると、半分が東京で見ているということが分かりました。（「相席食堂」のことが）東京で話題になってくれて、もう一回大阪でおもしろいよねと思ってくれたらいいかなという感じで、今ネット上でも話題になり始めた段階です。

10 月からもうちょっと数字（視聴率）をあげていきたいなと思っています。

ネットをどうやって積極的に活用しているかという、「Tver」には毎週 2 分の番組 PR を出せるんです。「今回の見どころ」といったものを作り、ネットにあげています。結構面倒な作業なんです。今まで地上波テレビでは番組と番組の間で番組 PR 用のスポットを出していたんです。これは、ながら視聴の人が偶然見るものなんです。でも「Tver」では再生するものに関しては、自分が意図的に選んでいるので同じ一人の視聴者でもその効果は強いなと思っています。実際、“見逃し配信”と同時にのせることによって、2 分間の番組予告 PR だけでも 2 万件ぐらいの再生はしてくれています。これだけの人が真剣に見てくれているということは、これはすごく有効なコンテンツだなと確信しています。折角こういうプラットフォーム（動画配信の“場”）があるので積極的に使っていこうということです。

地上波テレビの放送では不特定多数の人が視聴しているので、プライバシー保護とか、肖像権の問題などで画像をモザイク処理するケースが出てきます。制作者サイドがこのまま突っ込みたいと思っても、画像を消さないといけないとか、音声処理をしなければいけない部分があったりするんです。「Tver」のほうでは、そこをモザイク処理しなかったり、復活させたりして細かい作業をしています。

若者の間では確かにテレビの見方が変わってきています。地上波テレビで放送された「相席食堂」の番組を見て、今度は“見逃し配信”の「Tver」でネット視聴する。つまり“見逃し配信”だけを見るようになる面白くないので、2 回見て（地上波とネット）おいしいとは何なんだろうかと、今その段階を考えている最中です。

「Tver」には民放各局が相当数の番組をあげているんですが、9 月 23 日（2018 年）に放送した番組の再生ランキングをみると、1 位の「サバイバル・ウエディング」（日本テレビ）以下、テレビドラマ、バラエティー番組が 30 位まで表示されてい

ます。全国ネットの有名番組がずらりと並んでいます、ベスト10に入るということはまずないことで、この週はABCテレビの「相席食堂」が9位にランクインして注目されています。こういう風に（「Tver」の）ネット上ではある程度当初の目標が達成できる状況になってきていまして、ここから地上波テレビでの数字をどうして伸ばしていくかが課題になってきています。

それから社内に掲示されていたABCテレビ制作の番組に限った「Tver」“見逃し”番組の再生ランキング（8月第5週）では、「相席食堂」が2位まで上がってきています。レギュラー番組になってまだ半年余りですが、長寿番組「ナイトスクープ」などの番組と競い合うコンテンツに育ってきており、地上波だけでなく、今後大事になっていく部分かなと思っています。

<公式ツイッター7月に開設 ネット上にも“相席”ファン増える>

このご時世なので、番組の公式ツイッター（Twitter）を7月（2018年）に開設しました。まだワンクール（3か月）経っていないのですが、現在約8500人がフォローしてくれています。フォローというのは、この番組を自分のツイッター上で登録するということです。これが多いか少ないかというと、たかが8500人なんですが、比較的多い、順調だと思っています。大体、お笑いタレント松本人志さんが関わっている番組だと、番組のフォロワーというのが10万ぐらいいくんです。一般の番組で1万人に達するというのはなかなか難しい。ABCテレビの番組でいうと、「なるみ・岡村の過ぎるTV」（日曜日、23時台）が1万2000人、ここまでくるのに4年かかっています。「相席食堂」の場合、比較的早いタイミングで立ち上がっていると思っています。

（この日の会合で配布された資料『「相席食堂」SNSの活用』の中に次のような文言がある。

「番組のPRではなく **Twitter** だけでも楽しめるコンテンツに！」

高木プロデューサーは“楽しめるコンテンツとして”三つの事例をあげた。

- ① 現在毎週、番組内で千鳥がVTRを止めるボタンを何回押したかをクイズに出し、その回数をツイートしてくれると、当たった人には何かしらのプレゼントをするキャンペーンを行っています。そのプレゼントも「相席食堂」を収録しているスタジオの中にある小物に、千鳥が直筆でサインする、もうこれしかないよという手作り感を意図的に出したプレゼントを考えています。
- ② それからもうすぐ番組のステッカーが出来あがるんですが、その文言もツイッター上で「この文言にしてほしい」と10個ぐらいあげてもらい投票で決める。
- ③ 女性がパソコンの前で作業をしているオフショットの写真に仕掛けが！

「絶対無理だと思いますが、こういう感性を大事にしたいなと思いました」という文言にして、添付画像をクリックして、拡大して見ると、ワードのファイルには『相席食堂』会議 ゲスト案」と書いています。そして、そこにはとんでもない人の名前がいっぱい書いてある。

菅田将暉、小泉純一郎とか。こういうところまでクリックすると楽しんでもらえる。ここは雑に作るんじゃないで、ちゃんと仕掛けを作っていたりとか。こんなもん誰がコメントするのかなと思っていたら、結構コメントしたりしてくれています。実はこのゲスト案にはわざと菅田将暉を2回入れているんです。写真の女の子（後ろ姿）が菅田将暉を好きっぽいように見せたいなと思って、そしたら菅田将暉ファンの人がちょっと盛り上がりしてくれたりとか。この日も500人ぐらいフォロワーが増えました。こういうちっちゃなこと、ネットの人の特性とかを、拾っていかないといけないと思っています。

地上波も大事にしなければいけないんですが、こんなふうなことを考えながら番組を作っています。

「相席食堂」という番組がどんな番組か、そしてネットとの関係性をどのように組み立てようとしているかなどお話をさせていただきました。今ざっくりとしか言っていないので、皆さんからご質問やご意見をいただけたらと思っています。

司会 ここまでインターネット上の話で皆さん、ついてきていただいているのでしょうか。番組作りに関して、高木さんと我々とは、まるっきり違う世界が展開していると思うんですが、おそらく想像力を働かせて話を聞いていただいたのではないかと思います。ですから、今の番組の作り方というのはこんな風な形だけではないでしょうね。

高木 P 比較的、実行に移そうということだけは決めてやっている感じです。うちのスタッフ、みんなそこは意識しましょうと。こういうことをやり出すと、細かいことを言うと、ツイッターは誰が運用するのか、1回やり出すと止まらないので、それを止めてしまうとネガティブになってしまう。そういうところで結構踏み出せないんですね。ただ、我々の番組スタッフの中では、絶対やると決めて実行することをチーム内で一番評価する。結果的には番組のPRも僕がやっているんですが。

司会 おそらく、ひと昔とは言わない、前だと、こういうアイデアがあるが、じゃ誰が担当するのかといった話になってきて実行するにも前へ進めにくいところがありました。しかし向こう側にはそれを必要としている人がいるということが明らかになってくるのが分かってくる。

高木 P そうなんです。僕もツイッターとか、スマホに疎い人間で、ツイッターもやってなかったんです。ただ(番組で)こういうことをやるにあたって勉強し出して、イライラしながらもずっと(パソコンやスマホを)触ることをやっていたら、まあ2、3か月で慣れてしまったんですね。今では、当たり前のように手が勝手に動くようになるので、やっぱりやらないといけないんだろうな、もう実行に移すことだけかなと思っています。

僕は制作をずっとやってきた人間じゃないので、まずは自分が、何かこう他人と違うことをやってみようとする事しか武器がないなと思っていて、積極的に考えています。

司会 メディアウォッチングの例会では、昨年から現役の制作者をお呼びして、最先端の制作現場のお話を伺ってきましたが、在阪局一巡りの最後の5局目にネットを積極的に活用して番組作りを展開している高木さんに来ていただき、本当に良かったと思っています。

もっと基本的なことでご質問、聞いてみたいことなどおありではないかと思えます。番組では毎回芸能人など有名人が田舎を訪ねるという展開になっていますが、旅人がどこへ行くというのをどういう風に決めているのか。それから千鳥というメンバーの顔は知っていたが、名前と一致していた人、どれくらいいますかね。

(出席者に呼びかけるが、顔と名前が一致した人は)数人しかいませんね。

名前の知名度、テレビで毎日見る顔ですが、どうも年配の方には、千鳥という名前と彼らがなかなかくっつきませんね。ただ私は倉敷市児島というところで18歳まで育ちまして、彼らの話を聞いていると岡山弁が出てきますので、お二人とも岡山の間人だと分かり、親近感がわいてきました。彼らがしゃべっているのは純粋な関西弁ではないです。ほぼ岡山弁に近いですね。非常に面白いタレントだなと思えます。大体普通、大阪弁になってしまう人が多いんですが。

<地上波テレビとインターネット放送の違い>

高木 P もともと独特の岡山弁のイントネーションの言い回しで、クセがすごいと言われブレイクした漫才コンビです。何年前かに東京へ進出し、若い人の中で全国的に人気が出てくるんです。でもクセではなくて、瞬発力がすごいのが千鳥の魅力なんです。

出席者 岡山の放送局に7年間いて、千鳥は番組でも出演してもらったことがありますのでよく知っています。

「Tver」とかでインターネットにあげるとき、モザイク処理をせずに、そのままストレートに出すと言っておられましたが、逆にインターネットのほうが危ない

と思っています。それは権利のクリアとか、地上波テレビでは不都合なことがインターネットでは大丈夫というようなことはないと思うのですが。

「Tver」ならモザイクを外してもいいというのに違和感がありました。

高木 P ちょっと言葉足らずで申し訳ないんですが、(モザイクを)外していいというのは、ダメなものは映さない。例えば、局部は映せないですね。それはインターネットでも流せないです。逆に切り切られたてしまうとか、流出というのもあります。

出席者 (インターネットは)放送法的なものに触れないからということですか。

高木 P そのところ(基準)のラインをゆるくしてもらえているので。

この番組は、結構とがった番組をやっています。例えば長州力さんがロケに行ったときに、牛のうんちが後ろでずっと垂れ流されている状況の中で、ずっとしゃべっている映像があって、それが面白かったんですが、さすがに地上波テレビの時間では流せない。2秒どころか10秒以上も垂れ流されたりするので、本当にすごく面白いんですが。

地上波では、この番組を積極的に見ている人ばかりじゃないので、やっぱり気を遣わないといけません。ただ「Tver」のサイトでは自ら気になって見られている人なので、そういうシーンは消さないでいいと思うのです。

逆に、資料映像を使うときはお金がかかります。「Tver」とかで流すときはさらに使用料がかかるという状態なんです。そこで、そういう映像が使えなくなった部分を再編集して、その資料映像を使わないようにする。その辺の作業に結構手間がかかります。

司会 テレビ番組を作るスタッフの構成のことですが、(打ち合わせのとき)今まで高木さんとはあまり付き合いのない、新しい人たちがスタッフに加わってもらっていると伺いましたが、どういう意図があるのですか。

高木 P この機会に、自分の人脈を広げたいというのがまずありました。

この番組をレギュラーとして立ち上げるときに、ディレクターを外部の制作者から選んでいったんですが、今までずっとやってきて、この人は信用できるなと思えるディレクターはいっぱいたんです。しかし当人ではなくて、その人がいいと推してくれた人とやってみたいなと思っていました。今まで一緒にやってきた人だったら、自分が想像していた範疇のものしか作れないのではないかと、あえて関係の深くない人、ただしちゃんと下調べはしているんですが。また特番のとき、ADだった人をディレクターとしてデビューさせて、一緒にこの番組を成長させてい

きたいという考え方で、ゼロの人を集めました。実は一人だけ、かなり深いつながりのある人(前から一緒に番組を作ってきた制作者)が入っています。

<番組のコンセプト “田舎・人との出会い” から千鳥のキャラクターを全面に>

出席者 この番組は田舎へ取材に行くというのをコンセプトにしてスタートしたということですが、これにはどういう意図があるのですか。

高木 P この番組にとって「田舎」というのは大事な要素なんです。やっぱり田舎に有名人が行くからわーとなる、都会だったらそうならない部分がありますね。丁度番組を作り始めていた頃、“田舎ブーム”がピークだったような気がします。いろんな番組が“田舎に行こう”、田舎の路線バスに乗ってとか、田舎の秘境駅とか。何か田舎の魅力ってあるよなと思っていて、当初そういうところを選んでいました。最近、徐々に取り払って行って、横浜に行ったりもしています。ただこの番組の大事なところは人との触れ合いなので、そこがないと厳しくなる。田舎に行ってもなかなか人と出会えないとか、田舎に行くと、大体同じ展開になるんですね。だから、もうちょっと広げていこうとしています。結果的には、きっかけとしての田舎はあったんですが。田舎であり続ける理由がなくなってきた、それで取り払っていているという感じですね。

出席者 ちらっと“人との出会い”というキーワードが出てきましたが、今の世の中には、ちょっと欠けているというのもあったんですか。

高木 P やっぱり田舎の人は都会の人の生き方と違うので学ぶところもいっぱいあるだろうといういろいろ考えたんですが（結果的になくなってしまいました）。確かに（「田舎」は）この番組を作っていくきっかけになっていましたね。人間のつながりであったり、一期一会の出会いであったり、そういうところを大事にしていました。今はどんどんその要素が薄まってきています。従って、千鳥のキャラクターを生かす方向に寄って行っているという感じですね。

出席者 生意気な言い方をすると、「鶴瓶の家族に乾杯」（NHK）の焼き直しみたいな感じで、正直言ってボケのVTRも大して面白くないというのが僕の印象なんです。ただこの番組には、千鳥がちょっと気になる場所があれば、ボタンを押してVTRを止めるところに新機軸というか、これまでになかったツッコミの面白さが出ていた。VTRを止めるという発想は斬新だったと思う。どこから出てきたんですか。

高木 P 特番を作る際、千鳥の漫才を顔だけワイプで抜いて見せるというのは難しい。彼ら

が途中で自由にしゃべることができるスタイルとは何かを考えました。本来は、千鳥のロケ経験則から広がっていけば、おもしろいかなと最初は思ったんです。二人とも田舎出身なので田舎はこういうやり方は間違っているんだよといった具合に。ただそれも、ワイプでは生かされないということになって、結局、VTRを止めるしかないということになったんです。

それで先に説明した通り、以前、わが社が制作していた旅バラエティー番組で使っていたボタンを押してVTRを止める仕掛けを採用することにしました。

その番組というのは「東西芸人いきなり！2人旅」で制作局に異動になる前に見ていましたが、なかなか面白く、印象に残るものでした(2013年3月終了)。

(こういった演出は) VTRを止めることで番組の流れを止めてしまうパターンと流れを活かすパターンの2通りがあって、千鳥の場合は流れを活かせるパターンで使えるなと思いました。

実はディレクターには、千鳥が(VTRストップの) ボタンをちゃんと押しなくても、面白くなるように意図的に撮影してきてねと言っています。普段なら完成したきれいなVTRを作るのですが、それをもとに戻す。VTRチェック段階でちょっと粗くするというすごく手間のかかる作業をしているんですよ。本来なら、だらっと見せたくないところを、ここでは逆に意図的にだらっと見せましょうと。

「相席食堂」は25分番組なんですけど、実尺は20分なんです(CMなど外した番組の中身)、しかしもともとVTR自体は25分あるんです。最終的にあれは相当つまんでいっている(収録中に千鳥がVTRをストップすることでVTRが短くなっている)。ただ千鳥がその感情にたどりつくまでに、そのストロークが絶対要るので、(VTRを)意図的に長くして、その感情に追いついてきた部分を丁度千鳥が代弁したことによって、削れる部分があったりします。

出席者 原点で目指しているのは笑いですね。笑いの中で、パッと笑うという大笑いと後からふふふと、くすぐりとかそういう笑いがありますね。先ほど言われたようにVTRを止めるときに、千鳥がどっちの方向にその笑いをもっていつてくれるかな、非常に期待しながら見るんですが。くすぐりの笑いというのはなかなかテレビの番組では扱いにくいと思う。いわゆる落語とかステージでのライブでは、結構そういう笑いに接することがあるんです。テレビ番組の画面ではくすぐり笑いは、なかなかあってないというか出合わない。その表現の仕方が逆に、VTRをストップすることで、そのシーンをずっと引っぱって、それが面白かったんですよと、逆に千鳥に教えてもらうような、そんな効果が出そうで、私はそのところを期待しているんですが。

高木 P あると思いますね。大笑いの作り方として、今のVTRではなかったんですが、千

鳥が VTR を止めたことによって、何か起きていることが分かって、もう 1 回、VTR を巻き戻すパターンがあるんです。巻き戻して見て、そのの笑いを爆発させるというパターンも頻繁に使っているんです。

出席者 そういう手法も使えますね。VTR をストップすることによって。結構、見逃してしまう笑いというのでありますので。

高木 P それ面白いパターンとして、この番組では多いかなと思っています。

出席者 私はこの番組を見て、これは千鳥の漫才やと思った。VTR にあらわれる映像を材料(ネタ)にして即興で漫才をやっている、そのものやなど。
今、千鳥が出演している「スマートニュース」(スマートフォン用のニュースアプリ)のコマーシャルの中で大悟が相方のノブに呼びかけるセリフ「貴様は」、最初は違和感があったが、最近は好意的、あの二人の雰囲気自体を象徴していると思っています。あの二人の個性だからこの番組がある。こういう切り口で番組を作るというのは確かに面白い。若い人は期待を寄せるが、ある程度の年配者からすると、分からない部分があるかもしれませんね。

高木 P そうですね。この番組は M3 層、F3 層 (50 歳以上の男性、女性) の方には対して結構、雑に作っていると思っています。

出席者 逆に、雑に作られているのは(演出のため)ワザとやっておられるのだと思うし、彼ら二人が(そのことによって)生きてくるのだろうと思う。雑だから、そのネタを出して、それから彼らが何かをつくりだす、私はそのようにとっている。制作する人には、それぞれの意図があるでしょうから。

高木 P 実はチーム的には、雑に作っていることは理解していて、多分そうすることでついていけなくなる視聴者層が出てくる。ついていけなくなると、急に面白くなる。そんなこともスタッフ間で議論しているんです。
僕自身、身近なことで申し訳ないんですが、うちの妻の父が東京で「相席食堂」を毎週見ている“ゲラゲラ笑っているよ”と聞かされ、ちょっと考えを改めようかと思いはじめました。義父はずっと研究をやり続けていて、むちゃくちゃ硬い人で、今 60 代。つまり、年配の方が(この番組に)ついてこられないだろうなと思うこと自体、間違いだなと考えるようになってきたんです。
この番組を見にくいと思っている年配の方がたくさんいらっしゃることを前提に番組を作っていこう、多分若い人が笑っていたら、みんな笑うよね、慣れているか、

慣れていないかだけだよね、ということなのかなと思って、今番組を作っています。見にくいなという人が肌感覚として実際に多かったら、多少は修正していかなければいけないのかなと思っています。

出席者 今日見た VTR のケースは特番で、偶然、旅人の西川きよしさんらが千鳥の両親と相席するという設定になっていて、ハプニングもあり面白かったが、そうでないとき、どうなるか、例えば、ほかのタレントがリポーターになってロケに行き、面白くないときに、千鳥がどう反応するか見てみたい。

司会 打ち合わせが決まってから、先週この番組を見たんですが、志茂田景樹さん(直木賞作家)が画面(VTR)に出てきまして、何とも言えないカラフルな格好してカメラの前に現われ、この人が行くのかなと思ったら、「私、足腰が弱っていて歩けません、だから今回は誠に残念ながら出演を辞退させていただきます」というところから番組が始まったんです。え、これからどうなるのかなと見ていたら、千原兄弟の兄せいじさんが出て来て、横浜の飲み屋街を飲み歩くんですよ。かなり酔っぱらっていましたね。志茂田さんなら本当に面白かったらと思うんですが、再登板はないんですか。

高木 P あるかも知れません。ただちょっと、あいだを空けようと思っています。忘れたころがいいかなと。

出席者 スタジオの中で“笑い(の声)”入りますよね。あれはスタジオで見ているスタッフが笑っているのですか、笑いの声を入れているのですか。

高木 P ほぼスタッフとカメラマンの笑いですね。カメラマンに笑っていいよと言ってるんですよ。この番組は不思議なんです。スタッフ全員が言ってるんですが、他局で仕事をしている外部ディレクターも、どの番組よりもスタジオが面白いと言ってますね。それはこの番組の良さの一つで、誰もが楽しいと思っているところ、手作り感とか、千鳥を含めてチームに一体感がないと生まれてこないものなので、それが共有できているというのがすごいなと思っています。

司会 先週はアグネス・チャンでしたね。旅人(リポーター)はどうやって選ぶんですか。

高木 P 旅人は企画会議の半分ぐらい時間をかけて選びます。タレント名鑑などを参考にしているいろんなタイプの人を挙げていきます。さらにブッキングをお願いする会社の人も相談し、旅人の人選について慎重に話し合います。

司会 タレントの人間性とか、別に面白くしようと思ってタレントは旅しているわけでもないですね。そこで何か生まれてくる可能性のあるタレントでなければ(番組としては)生きてこないでしょうね。その辺、見極めがとても難しいなと思って見ているんですが。

高木 P 難しいです。絶対やってみないと分からないですね。こちら(制作者側)はある程度計算して作っていますが、この番組では現場で起こったことを優先してほしいと言っていますので、ロケのとき、カメラは長回ししています(何が起きても対応できるよう)。

出席者 今週日曜日(9月23日)の放送で相席がなかなか成立しないケースが放送されましたね。お笑いコンビ「笑い飯」^{わらいめし}の一人西田幸治さんが旅人になって岩手県一関市を訪ねた番組。相席をトライしようとしては、人とのコミュニケーションが下手な芸人(西田)が躊躇してなかなか成立しない。お餅がいろんな形で料理に出てくることで有名な町なんですけど、私は見ていると大変面白かったと思いました。西田さんという人は得がたいキャラクターの持ち主です。当たり前なんだけれど、なかなか相席ができないんだというところを、西田さんの困った表情を長々と撮ることによってリアルに描き出していた。そしてやっと成立した“相席”もわざとらしさがなく、自然な会話が楽しめました。

出席者 旅人のタレント西田さんが(なかなか相席できず)困惑している画面が続き、いくつもVTRをストップできるシーンが何か所かあったと思うんですが、それがストップできず通ってしまいました。

高木 P 旅人の西田さんは「笑い飯」の一人で、独特のパーソナリティーを持っていますね。

出席者 VTRを一瞬止めるという手法には、笑いを見つけるツールになっているのかもしれませんがね。

高木 P 先ほどから話題になっている「笑い飯」の西田さんのVTRが新しいパターンでというのうれしいんですが、2回できないんですよ。この悩みは同じパターンを繰り返せないことです。
実をいうと1か月ぐらい前に研ナオコさんに北九州市に行ってもらっているんですが、研ナオコさんは極度の人見知りなんです。出演をお願いしたとき、いやだと言われたんですよ。

というパターンもあって、西田さんはそれだけでいくと厳しいな、まさに同じような展開になるかなと思いました。じゃこれに何かの要素を加えれば、もともと西田さんをブッキングした理由は、千鳥とメチャクチャ仲がいいというところがあったので、千鳥から見た西田という目線をテーマにしてはどうかということで番組を組み立てました。相席が不成立、相席しないという場面で千鳥がどのように対処するかというのが一つのストーリー、テーマかなと思いました。

アグネス・チャンのときは平凡な組み立てになりましたが、“平凡”がきたときに、千鳥がどう処理するか、(制作者としては)一応同じようで、同じパターンを作らないように工夫しています。

そろそろ(笑いをひき出す仕組みも)なくなるんじゃないかと思いつつ、もう夏ぐらいから、もうないんじゃないかと思いつつ、とにかく勉強しながら作っています。

司会 ちなみにこれまで出演した旅人は次の通り

かたせ梨乃、具志堅用高、武井壮、長州力、鈴木奈々、DJKOO、ナジャグランディバ、渡部陽一、研ナオコ、志茂田景樹、アグネス・チャン、千原せいじ、ナダル、横澤夏子、尼神インター・渚、間寛平、西川きよし、ケンドーコバヤシ、RG、ゆりやんレトリィバァ、笑い飯・西田

というような人が旅をしています。

かなりバラエティーに富んだ名前が並んでいます。我々が普段こうやったらこうなるだろう、想像しがたい人は割と少ないですね。次の放送はVシネマに出ている白竜さん、予想通り町の人は怖がっていました。

(高木さんは「これからの放送について」個人的な意見として次のように語った)

高木 P ビジネスとしての放送について、地上波ビジネスだけを考えず、ネットとの融合を考える時機に来ています。もっといろんなことを考えないといけないんですが、僕個人としては「アベマテレビ (Abema TV)」って、かなりチャンスだと思っています。ほかのコンテンツにない生放送を結構やっているのが強みで、そこに積極的に介入してもいいんじゃないかなと思っています。ネットとの融合というか、お互いにいいところを認め合う。向こうにとっても得なものがないといけないんです。地上波テレビが絶対に一番という考え方は排除してもいいんじゃないかな、今までのプライドを取っ払っていかないと前に進めないなど若い人の中ではこんな考え方を持っている人が出て来ています。

【アベマテレビ】インターネット放送局、
インターネットを利用した映像配信サービス

司会 今日番組本体も楽しく拝見しましたし、こういった番組作りをどうやって活かして使っていくか、今、制作現場では我々の世代(高齢者)では、なかなか想像もできなかったようなことが起こっているということが分かりました。
今日は大変いいお話をたくさんしていただき、ありがとうございました。
まだまだ、テレビの可能性があると見ていらっしゃるんじゃないかという気がしますので、これからも、どうかお体に気をつけて、笑いをいっぱい引き出す番組を作っていただきたいと思います。

以上

<次ページ> 参考資料 「メディアウォッチング」46回例会
テレビ放送開始から65年 「深夜番組」が大きく変わった

参考資料

「メディアアウオッチング」46回例会（2018年9月26日）

テレビ放送開始から65年 「深夜番組」が大きく変わった

●資料1枚目

テレビ放送開始期(1953年)編成表 (NHK・2月開局) (日本テレビ・8月開局)
NHK・日本テレビともに放送開始は午前11時55分、放送終了は午後9時台
昼間の時間帯は放送休止

●資料2枚目

報道番組の大型化 (1984年—1989年) 在京テレビ局の編成表
1985年10月から
テレビ朝日が22時台にニュース番組「ニュースステーション」新設
(月～金、75分)

●資料3枚目

深夜番組の開発 フジテレビの編成表 (1987年—1990年)
1983年にフジテレビが生放送型の深夜番組「オールナイトフジ」を始める
(土曜の深夜午前0時45分～2時間)
1987年10月の番組改編で民放テレビが24時間放送
TBSが週6日、フジテレビが週5日のオールナイト放送に踏み切る
1988年春から他の民放各局も終夜放送へ
▼1987年10月時点の深夜帯の週平均視聴率(関東地区)
午前0時台15%、1時台7%、2時台3%、3時台2%
(「テレビ史ハンドブック」)

テレビは1953年放送開始当初から午前は7時から10時台、
夜は11時から深夜にかけて
“不毛の時間帯”と言われてきた

その朝の時間帯に挑戦したのが、

▼午前8時30分～9時35分(月～金)「木島則夫モーニングショー」
(NET→テレビ朝日、1964年4月)

そして深夜番組開発の先駆者といえるのが

▼午後11時20分～0時25分(月～金)「11PM」
(日本テレビ・読売テレビ、1965年11月)